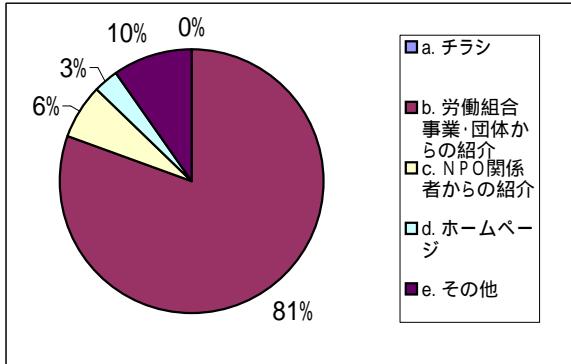


ネットワークでホットな地域を ～異文化交流！NPOと労働組合の協働の可能性を考える～

＜アンケート集計結果＞

【有効回答数：31】

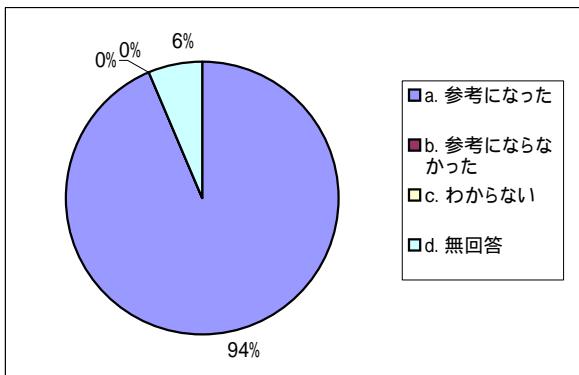
Q1 今回の催しを何でお知りになりましたか。



a.	チラシ	0 < 0.0% >
b.	労働組合事業・団体からの紹介	25 < 80.6% >
c.	NPO関係者からの紹介	2 < 6.5% >
d.	ホームページ	1 < 3.2% >
e.	その他	3 < 9.7% >

e. その他
職場
出演者から

Q2 『パネルディスカッション』はいかがでしたか。

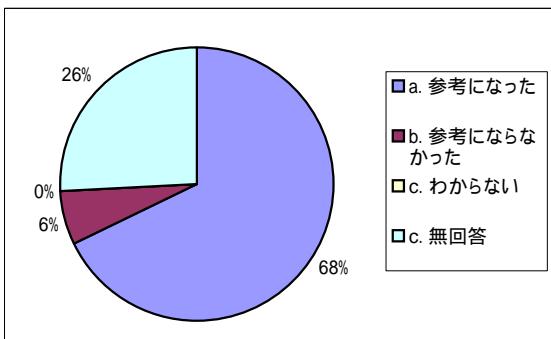


a.	参考になった	29 < 93.5% >
b.	参考にならなかった	0 < 0.0% >
c.	わからない	0 < 0.0% >
d.	無回答	2 < 6.5% >

ご感想があればお聞かせください

現在のNPOの実態（賃金・報酬）がわかり参考になった。
これまでNPOについてはほとんど無知だったが、知識として得られたと感じている
相互に共通の理解が深まった
NPOの初歩がわかった
NPOについて理解できた
熱心な話、それぞれの具体的な事例を聞くことができた。
それ違いの実態がわかった
各パネリストの方々の生の発言がよかったです
文化の違う組織であり、思い・考えの違いはある。今回のディスカッションではその理解が図れたと思う。
労働組合とNPOが社会的存在として共通の目的を持っている
ということがよくわかり、よかったです
オープンディスカッションで緊張感もあり、最後までしっかりと聞くことができた。知らないことも多く、カルチャーショックを受けるとともに、刺激になった
何か話がかみ合わなかった。交流の難しさか。
NPOの方の話はわかるが、存在自体があまり知られてない
では。自分が住んでいる地域でも何があるのかわからない。
労組の指導者の考え方方がわかったものの少しギャップを感じ
難しい問題だと思う
話の中でもでたが、「継続」することが大切。07年問題で労働者が地域に戻る。その力を社会が有効に使うべきだし、労働組合もそのために力を注ぐべきだ

**Q3 『元気シニアの「NPOインターンシップ
体験」報告』はいかがでしたか。**

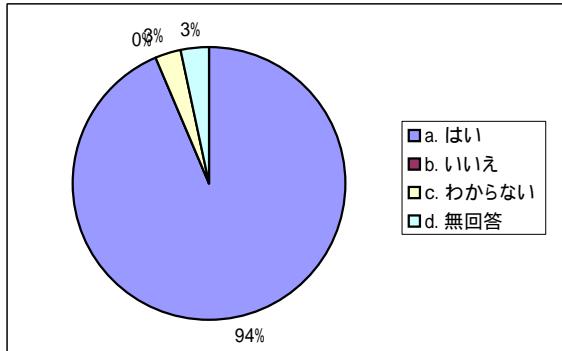


a.	参考になった	21 < 67.7% >
b.	参考にならなかった	2 < 6.5% >
c.	わからない	0 < 0.0% >
d.	無回答	8 < 25.8% >

ご感想があればお聞かせください

NPOで毎日家事支援サービス又は移送サービスをする弟を持つので、共感できた
各自の体験報告は、苦労話も含めよかったです
実際に活動している方の生き生きとした様子がよかったです
自分もやってみようかと思わせる力があると思う
第2の人生のあり方を考えさせられた
リタイア後の「生きがい」になると思った
両名共に言えることだが、何か目的や意義を持って生活されている方は本当に若々しいと思った。自分もそう遠くない将来にその時期を迎えるとき、生きる意味を持ってみたいと思った（この制度が）今後、絶対必要になってくると思う
いずれ自分も地域で生活しなければならなくなる。その時に自分が出来ることで周りの人の力になれれば、と思う

**Q 4 NPOと労働組合の協働は可能だと
思いますか。**



a.	はい	29 < 93.5% >
b.	いいえ	0 < 0.0% >
c.	わからない	1 < 3.2% >
d.	無回答	1 < 3.2% > (その他)

「はい」の理由

[今日出席して]

- ・両者共に社会的存在として共通の目的をもっていることが今回わかったから
- ・今日少しギャップが狭まったのではないかと思うから
- ・今回はお互いを知るいいきっかけとなった。今後協働していくために議論していくことが大切だと思う
- ・今日の話を聞いてそう思う

[目的の同一性]

- ・立場は違っても目的が同一だから
- ・協働の範囲はあると思うが、目的が似ていると思ったから
- ・組織の成り立ちとしては異なるところもあるが、活動そのものの主旨は共通項が多いと感じたから。お互いが壁を消し去れすぐにでも協働は可能だと思う

[条件つき]

- ・情報とコーディネートをする機関（事務局）が必要
- ・事業・責任者・考え方について信頼関係を持てるところであれば可能か
- ・互いに弱いところ、足りないところを補う方法として可能
- ・相互理解が必要。システム化の組織の構築が必要
- ・互いのニーズの共有で、問題解決に近づけると思う
- ・お互いに自分達ができるることを知ることで、協力して問題解決は出来ると思う

- ・組合員が個人的にNPOに関わっていることが多いと思うから。そして何よりも、お互いに壁に突き当たっている状況に思えるから
- ・可能というより、やらねばならないことだと思う
- ・組合員は地域の一員でもあるので、立場は違うが両方の立場になって考えられるし、行動もできると思った

**Q 5 地域の中でNPOと労働組合が連携して活動するには、何が一番重要だと思いますか。
あるいはどのような工夫が必要だと思いますか。**

[きっかけづくり・相互理解]

- ・まずは合うきっかけが必要。お互いにPRすべき
- ・出会いの場と信頼関係（お互いを認知しあえる風土の構築）
- ・交流、見学会など
- ・相互の理解から
- ・知り合うきっかけづくり
- ・出会いの場の話があったが、まずは何かと一緒に行うという出会いのきっかけをつくり、そこから交流が進められ、同じ目標に迎えるのかと思つ
- ・お互いをよく知ることから
- ・お互いがお互いを知り合うことが必要
- ・まずはそれぞれが活動を知っていくこと。お互い活動を認め合い、話し合う機会があれば理解し合うことは可能だと思った

[情報交換]

- ・情報交換の場を互いにつくること
- ・情報と結びつき
- ・まずはもっと情報を共有することから
- ・定期的な活動と懇談会により、共通認識を持つこと

[話し合いの場]

- ・率直な話し合いの中で、具体的な取り組みをまず始めることが大事だと思う
- ・地域ごとの話し合いの場の提供
- ・もっと小さなグループの中で話し合えたらいい

[その他]

- ・労働組合側から歩み寄ること。NPO側から労働組合側へ提案していくのは難しいと思う。また、労働組合がもっと組合員に宣伝することが最も重要なと思う
- ・同じ空気を吸い、同じ水を飲む人間としての心を伝える活動
- ・地域住民の信頼を得ることが必要
- ・労組幹部、組合コーディネーターがNPOを多数体験すること
- ・相互の連携が必要だと認識すること。今日のシンポジウムはそうした意味で大変有意義な企画だったと思う
- ・気持ち
- ・NPO・労働組合の運動を越え、社会・地域に目を向けた運動の必要性を多くの人に理解してもらうこと。そのために納得性のある運動を進めること
- ・会社で賃金を得ている組合員へ、NPOへの理解と必要性を求めることが重要と思う。退職後に活動できる環境整備が必要と考える

Q6 あなたが考える、NPOと労働組合の強みと弱みをお聞かせください。

NPOの強み

- ・志や思い、意志の強、
- ・地域の声
- ・自発性、創意工夫
- ・密着性
- ・自由、誰でも参加できる
- ・自主性、細かいケア
- ・芯を持った人の集まりであり、勢いがある
- ・自分自身の思いが叶えられる
- ・地域に対する貢献度
- ・実活動からの経験
- ・個々人のボランティアに対する考え方
- ・専門知識力

NPOの弱み

- ・ヒト・モノ・カネ
- ・個人頼り
- ・独立独歩
- ・ノウハウが確立していない印象。情報不足。ネットワークが労組と比べるとない
- ・(活動・対象が)限定されてしまうこと
- ・経済的に弱い(複数回答)
- ・社会からの認知度。ボランティアとの区別のあいまいさ(資金・労働条件等)
- ・全体組織としての連携力、まとまらず個人団体
- ・地域へのPR不足(複数回答)

労働組合の強み

- ・ヒト・モノ・カネ(複数回答)
- ・ネットワーク(複数回答)
- ・組織力、社会性(政治・行政との関わり)、他業種との関わり
- ・連結する力、組織力(複数回答)
- ・組合による地域へのボランティア活動をとおして一人ひとりた地域貢献したいと考えている
- ・仕事を通じての技術・専門性
- ・スケールメリット(規模を大きくすることで得られる利益)(複数回答)
- ・数の力(複数回答)
- ・各行政対応。人員の動員力

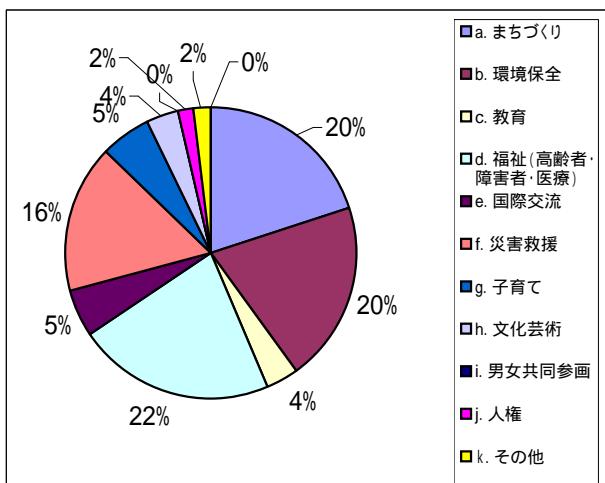
労働組合の弱み

- ・志や思い
- ・社会性(市民感覚との乖離)
- ・個性の発揮
- ・企業内労働組合としての活動になっている
- ・個々の力量の弱さ
- ・肩書きが好きなこと。立場を作りたがることの意識
- ・必ずしも全員が志を持っている組織ではない。一部の役員のみが必死になっている
- ・とじこもりがち
- ・地域に対する貢献度(アピールも含む)
- ・外部に対する主張性
- ・地域活動への参加、アピール
- ・毎日は活動できない、会社員であること

[その他]

- ・(NPOの強み・弱み)一種の宗教的な情熱みたいなものを感じる。
- (労組の強み・弱み)いろいろな人が多くいるので、全体的に総論的になりがち。事業に手をだしうぎか
- ・お互いにアピールが弱いと思う。事実、自分の地域のNPOについて全く知らないし、知られていない

Q7 今後、機会があれば参加してみたいボランティアの活動分野は何ですか？



a.	まちづくり	11	< 30.6% >
b.	環境保全	11	< 30.6% >
c.	教育	2	< 5.6% >
d.	福祉(高齢者・障害者・医療)	12	< 33.3% >
e.	国際交流	3	< 8.3% >
f.	災害救援	9	< 25.0% >
g.	子育て	3	< 8.3% >
h.	文化芸術	2	< 5.6% >
i.	男女共同参画	0	< 0.0% >
j.	人権	1	< 2.8% >
k.	その他	1	< 2.8% >
l.	ない	0	< 0.0% >

Q8 本日の催し全体を通してご意見・ご感想等ございましたらお聞かせください。

(パネルディスカッション)

パネリストの皆さん方が本音で話をされているのが大変よかったです
いろいろな考え方や話を聞くことができて、よい経験となった

(今後の労組の活動について)

NPOについてほとんど知識がなかったが、理解できた。今後は組合としても社会的貢献を通じてNPOと協働していくことの必要性を感じた

初めて労働組合として、NPOの活動・問題等についてよく理解できた。NPO団体も幅広いと感じた。

今後、ボランティア団体へ加入して活動していきたいと思った

すばらしかった。自分の組合に広げていきたいと思う。

労組が地域に出向いてニーズをくみ取ってほしい

社会に目を向けた運動を、組合としてもPRしていくことが必要になってくると感じた

(全体)

とても勉強になった。（NPOをあまり知らなかつたことを）少し反省もしている。

有意義なシンポジウムであったと感銘した。地域で団塊世代の人との交流を深めることの必要性を痛感した
勉強になった、生意気だが思ったより勉強になった（複数回答）

労働組合はいろいろな活動をしているが、全体主義的な立場で行動している。一方NPOは地域主義である。これら；問題・テーマを整理して議論しないとかみ合わない。考え方として、「NPOの運営、そこで働く人への経営に対し支援すること」と「組合員の活動・支援をその運営にすること」、「NPOの活動の有償・無償の問題」など整理して議論しないと「ダンゴ」になってシンポジウムが終わり、頭に残るモノもないという繰り返しになっている。

(その他)

公務員の労働組合にとっては、難しく困難な課題である

ボランティアに対するそれぞれの立場の難しさを感じた

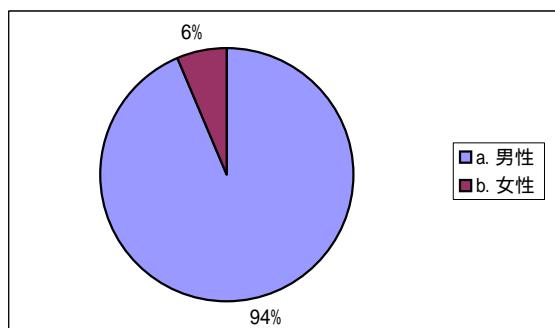
やはり継続していくことが大切。自分も考えを改めたい

初回を引き継いで、地域市民活動を成してほしい

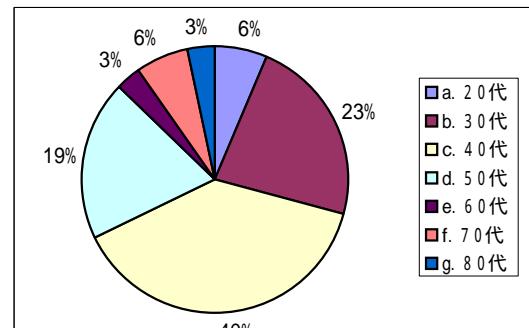
ネットワークSAITAMA21を通じて、今後交流会などの活動を広げて欲しい

NPOの方が、組合にお願いばかりで、一緒にやろうという気を持っているのかわからない。思っているのであれば、同じ志をもっている人、同じような仕事をしている人とまとまって一緒にやってもいいのではないか。

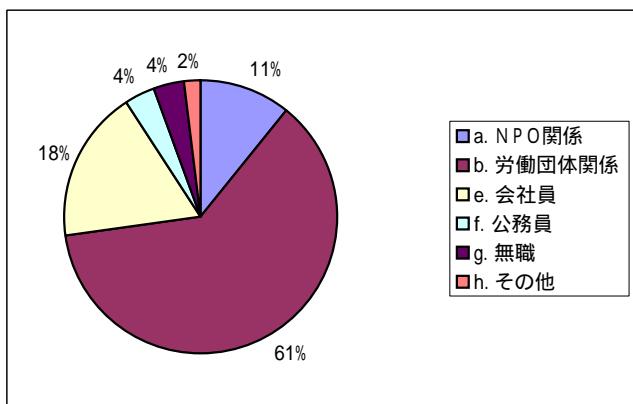
性別



年代



職業



I. その他